

幌延フォーラム2015 挨拶

平成27年11月11日
幌延深地層研究センター所長 清水和彦

本日はお忙しい中、幌延フォーラム2015に足をお運びいただき、ありがとうございます。

当センターの業務について地域の皆さまにご紹介をする機会を、年に3回設けています。今年も5月に本年度の研究計画についての説明会、8月には昨年度の研究成果についての報告会を開催しました。本日の幌延フォーラムは、計画の説明とか成果の報告といった形式にはとらわれずに、広く地域の皆さまに親しんでいただきたいという思いで、毎年この時期に開催しているものです。

本日は、まず特別講演として、稚内禎心会病院の奥村 智吉院長をお招きして、「『健康寿命』～ぴんぴんころりを目指して～」と題したご講演をお願いしています。その後、休憩をはさんで、当センターの方から、幌延深地層研究センターの歴史について、過去の記録をひも解きながら、ご紹介させていただきます。

振り返れば長い歴史があるわけですが、現在の幌延深地層研究計画がスタートしたのは平成13年3月で、今年で15年目になります。その間、施設の整備や研究開発を順調に進めることができ、着実に成果をあげてきています。これもひとえに、幌延町をはじめとする地域の皆さまのご理解と温かいご支援の賜物と深く感謝しています。

私自身は、所長として3年目の後半にさしかかったところですが、住めば都の言葉どおり、幌延の町は非常に住みやすいところだと感じています。まず、市街地が非常にコンパクトに整備されているので日常生活がしやすい。また、言わずもがなですが、夏が涼しい。猛暑とか熱帯夜といった日本の夏の風物詩とは無縁の環境にあります。その分、冬は厳しいわけですが、暖房や除雪のシステムがしっかりしているので、思いのほかしのぎやすいことに驚いています。いずれにしても、夏の過ごしやすさを引き合いに出せば、年間を通して差し引きプラスの「住み良い町」と言えるかと思えます。

今まさに、地方創生の時代で、幌延町の方でもいろいろな取組みが始まりつつあるところだと思えます。そもそも幌延深地層研究計画は、

高レベル放射性廃棄物の地層処分という国の重要政策を進めていくための研究開発を行うと同時に、それがひいては幌延町の地域振興にも役立つという理念のもとにスタートした計画です。現在は研究のために工事を中断しているのですが、その分の仕事が減っていますが、それでも今後しばらくの間は年間10億円程度の経済効果が見込まれます。これが補助的なエネルギーとなって、幌延町における地方創生の取組みが少しでも前に進んでいくことを切に願っています。

今後とも、幌延深地層研究センターに対して、相変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。

以上